

樽味四反地遺跡 2 次調査



樽味地区
重要遺跡確認調査
(J区)

- 調査期間：平成22年1月18日～3月末日予定
- 調査場所：松山市樽味四丁目229番1の一部
- 調査面積：約100㎡
- 調査担当：松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団 埋蔵文化財センター

【1. はじめに】

- ・今回は学術目的（重要遺跡の範囲内容確認）の調査です。
- ・調査区は過去に実施した18次調査、重要遺跡確認調査G区（平成17年度）とI区（平成21年度）などを繋いで設定しています。
- ・埋蔵文化財は現地表下30cmで確認され、主に古墳時代中期以降の生活関連遺構が濃密に分布している状況が明らかになりました。
- ・以下に、主な遺構や遺物を紹介します。

【2. 確認した主な遺構】

- A. 掘立柱建物…1棟（2間×2間、床面積およそ12㎡）
 - B. 竪穴建物（住居）①～④…4棟（長方形プランと方形プランか）
 - C. 溝…1条（東西方向を指向）
 - D. 柱穴…40基ほど
- ※遺構変遷（重複関係）：A（掘立柱建物）→B（竪穴建物①・④）
→B（竪穴建物②）→B（竪穴建物③）→C（溝）

【3. 発見した主な遺物】

- 1) 弥生土器（前期の壺片/木葉文、中期の高坏片/矢羽根透かし、後期の甕片・壺片など）
- 2) 石器（扁平片刃石斧/加工用、緑色片岩製←在地石材、砥石/鉄器用、竪穴建物①）
- 3) 土師器（古墳時代中～後期の甕片、高坏片など）、軟質土器（長胴甕の胴部片か）
- 4) 須恵器（古墳時代中～後期の坏蓋・坏身・高坏片・壺片、奈良時代の須恵器片）



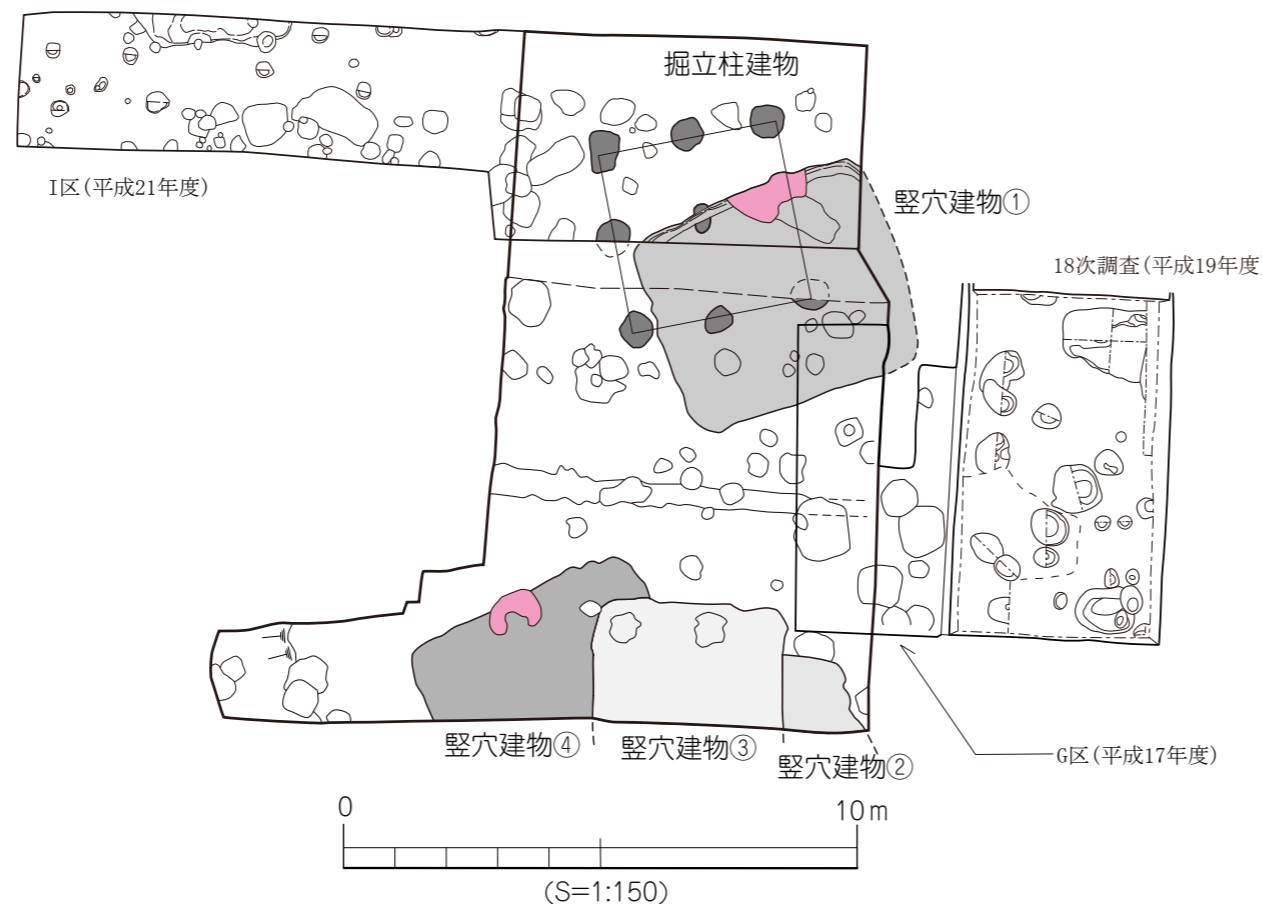
13次調査(平成17年度)

6次調査(平成10年度)



13次・21次の記録写真(南上方より)

古墳時代初め頃の大型建物(3号建物：床面積115.54㎡推定復元値)



竪穴建物③の隣群(西より)

【4. 調査のまとめ】

- 古墳時代初め頃の大型建物群に伴うあらたな遺構を確認するには至りませんでした。このことから、大型建物群の西域の一角は当時、広場的な役割を果たしていたと考えられます。
- 調査地が本格的に土地利用されるのが古墳時代中～後期頃で、小規模な竪穴建物や掘立柱建物などの集落関連遺構が展開していました。重複関係から遺構の変遷を理解することが可能になりました。
- 竪穴建物には竈が伴うものがあり、蒸し器に使われた「甑(こしき)」と呼ばれる“うつわ”の破片も確認できたことから、新しい炊飯施設とうつわが集落内に確実に受容されていたことを追認できました。
- 掘立柱建物からは古墳時代中期後半頃の遺物が発見されました。時期や規模等から、この建物は食糧などを保管する倉庫の可能性があります。これは当時の集落景観を考える上で興味深いデータに位置付けられ、既往の調査データの解析に大いに参考となるものです。

樽味四反地遺跡22次調査の成果